**あなたがチームや組織で協業して何かを達成した経験について、具体的なエピソードとともに記述してください。  
500文字以下**

大学時代、サポート役として異なる意見をまとめ、チームメンバーと協業し研究を完成させ、合同ゼミで1位を取った経験だ。当時、私たちはどの飲料容器が持続可能な社会に望ましいかを研究していた。しかし、最終的な研究方法について意見がまとまらず、研究が一時的に止まっていた。異なる意見を取り入れた研究こそ実施する価値が高いと考えた私は、ゼミ以外にも意見をすり合わせる会を開催することを提案した。会議では、研究方法の良さや適用範囲などをメンバーにそれぞれ発表してもらい、3つの中から最適な方法を全員で決定した。さらに、効率的な研究を目指し、メンバーの強みを活かした作業ができるように、英語文献の資料をリサーチするチームと統計学に長けているアンケートを分析するチームの2チーム体制を提案した。チーム間に意思疎通のズレが生じないように、私はリサーチチームに所属しながら、アンケートチームと密に確認を取っていた。その結果、適切な研究方法に基づいた発表ができ、私たちは合同ゼミ内の倫理性評価で一位となった。この経験から、自分の考えに囚われず、積極的に話し合い相手の視点を取り入れることの大切さを学んだ。

**「あなたらしさ」が伝わるエピソードや経験を具体的に記述してください。例えば、学生時代に力を注いだこと、成し遂げたこと、失敗経験から学び克服してきたことなどです。学業（研究課題や興味を持った科目）や課外活動（サークル、アルバイト、趣味）など、トピックはご自身で決めてください。  
ただし、他の設問とは異なる経験について記述してください。  
500文字以下**

大学時代にユニクロのアルバイトリーダーとして店員と連携し、業務効率を改善することで顧客満足度を向上させた。当店舗は業務が多く、店員の業務効率が悪いため非常に忙しかった。それ故、顧客対応が不十分となり、顧客満足度は5点中３点しかなかった。また、店員は忙しさのストレスが溜まり、働くモチベーションが下がっていた。そこで、私はリーダーとしての責任感を感じて店舗のイメージを向上させたく、店員と連携して業務効率化に挑戦した。私は1）店員の業務の観察と対話の中で彼らの得意・不得意な業務を把握し、仕事経験も加味して適材適所に人員を再配置した。2）常に売場状況や作業進捗度の共有を行い、状況により業務の優先順位を調整した。結果として店員のストレスは見られなくなり、業務効率が向上したことで顧客対応に余裕が生まれた。そして、全員が積極的に顧客に声かけや採寸などを行うように呼び掛けることで顧客対応を活発化させた結果、顧客満足度は3点から4.5点に向上した。この経験で、自分の強みである　「難しい課題でも解決に取り組む」生かすこともできたと考える。